

「**信仰が見えるみえる**」 ルカ 5：17～26

## I 導入部

お早うございます。7月の第四日曜日を迎えました。今日も愛する皆さんと共に礼拝をささげることができることを感謝致します。梅雨も明け、蝉の声も聞こえます。本格的な夏がやってまいりました。

毎日が暑さで大変なので、暑い時期、メッセージの時間も少し短くした方がいいかなあと考えております。8月13日から9月3日までの一か月間は、早朝礼拝、午前7時からの礼拝を計画しており、礼拝時間を40分を目指し、メッセージの時間も、普段の礼拝よりも短か目なので、時間のない方々には、お勧めです。お祈り下さり出席ください。

クリスチャン医師として、この世にあっても、大変有名な日野原先生が、105歳で天に召されました。クリスチャンとして、多くの証しを残され、多くの人々に仕えて来られた人生であったと思います。また、日野原先生とは、対局とはいいませんが、ひふみんこと、将棋士の加藤一二三さんは、クリスチャンです。藤井四段が大変有名になりましたが、彼のお陰で多くのテレビに出演し、最近ではバラエティーの番組等にも引っ張りだこです。彼も、その発言には、クリスチャンとして、神様を信じる者として証ししておられます。

私たちは、この世にあっては、有名ではありません。無名ですが、それぞれに置かれた立場で、関わる人々に、イエス・キリスト様を信じる者として、少しでも証しする者でありたいと思います。

さて、今日はルカによる福音書5章17節から26節を通して、「**信仰が見えるみえる**」という題でお話し致します。

## II 本論部

### 一、どのような理由であれイエス様の元に来る

今日の聖書の箇所は、中風の人癒しの記事です。イエス様の周りにはいつでも多くの人々がいました。その人々の中には、17節にあるように、ファリサイ派の人々や律法の教師たちが座っていた、とあります。イエス様を一目見たいと、あるいは、イエス様に興味を持って、イエス様の話しを聞きたいと願って座っていたのではないでしょう。イエス様が、どのような話をするのかをチェックして、攻撃の材料にすることを考えていたことでしょう。ここに集った人々は、それぞれに、自分の思いや願いを持って集まったことでしょう。当時の注目された人を一目見たいと弥次馬根性の人も、何かいい話をされるからとイエス様の話しを聞きたいと願った人、特に何もなければ、みんなが集まっているからという人と様々であったでしょう。17節の最後には、「**主の力が働いて、イエスは病気をいやしておられた。**」とありますから、イエス様は奇跡を行うらしいと聞いた人や奇跡

を見たいと思う人が多くいたのではないのでしょうか。

そして、これらの群衆とは、また別の思いを持つ人々が、この群衆に加わるのです。男たちが、中風を患っている人を床に乗せて運んで来たのです。マルコによる福音書には、四人の男と記されていますから、四人いたのでしょう。彼らは、興味本位や奇跡見たさではありません。どうしても、イエス様をお願いしたいことがある。会ってほしい人がいる。何としても、友人の苦しみを、病気を癒してほしいという真剣な、目的のためにはなりふり構わないという緊迫した状況の中で四人の男は行動したのです。

だからこそ、群衆に阻（はば）まれて、イエス様の所に中風の人を運び込めなかったので、何とかしたい。しなくてはいけないという思いで、家の瓦をはがして、中風の友人をイエス様の前につり降ろしたのです。真剣です。一生懸命でした。

私たちは毎週、このようにして礼拝に集っています。どのような思いで私たちは集っているのでしょうか。いつもの習慣だから礼拝に来る。習慣的に礼拝に来ることもとても大切です。「安息日を心に留め、これを聖別せよ。」(出エジプト20:8)という十戒にあるから、礼拝を守るという方がおられるかも知れません。礼拝を守らないと神様に、あるいは牧師に悪いからということもあるかも知れません。あるいは、今週大変な事があって、どうしても神様の前に祈りたい。み言葉をいただきたいという真剣な思いで来ておられる方もいるでしょう。私たちは、いろいろな立場にはありますが、私たちがどのような状況にあろうとも、イエス様は、私たちを愛し、強め、その願いと祈りに答えて、祝福して下さるのです。

## 二、大丈夫の神を絶対に信じる

20節を皆さんと共に読みましょう。「イエスはその人たちの信仰を見て、「人よ、あなたの罪は赦された」と言われた。」 平行記事のマタイによる福音書、マルコによる福音書には、「あなたの罪は赦される」となっています。

イエス様は、「その人たちの信仰を見て」とあります。彼らの信仰とは、中風の人をイエス様の前に置こうとしたけれども、群衆に阻まれてイエス様の所へ行けなかったので、屋根に上り、瓦をはがし、病人を床ごとつり降ろしてイエス様の前に置いたことでしょうか。勿論、信仰があったから、そのようなことができたでしょう。家の持ち主には、文句を言われ、弁償を迫られるかも知れません。イエス様の話しを楽しみに聞いている人々、奇跡を期待している人々からは、「何故、そんなことをするのか」と怒鳴られるかも知れません。ですから、家の主人や群衆から見れば、四人の男の身勝手な行動と見ることもできます。そして、何よりも、群衆に向かって話しているイエス様から宣教の邪魔をしたと叱られるかもしれないのです。そのような事が予想されながらも、彼らが非常識と言われる、身勝手だと思われたことをした事を、イエス様は「彼らの信仰」と見られたのでしょうか。一生懸命さや努力を信仰と見られたのでしょうか。

詳訳聖書には、「彼らの信仰（から出ている御自分への信頼）を見て」とあります。リビングバイブルには、「これほどまでの信仰」とあります。屋根に上り、瓦をはがし、病人を床ごとつり降ろしてイエス様の前に置いたということは彼らの行動です。勿論、信仰から

出たことです。身勝手な行動です。人の迷惑も顧みない行動でした。けれども、イエス様が見られた彼らの信仰とは、イエス様に対するもの、イエス様に対する全幅の信頼だったのです。イエス様なら必ず何とかして下さる、という信頼でした。

中風で苦しんでいる人を思い、彼をイエス様の所に連れて行けば絶対に癒して下さる。何とかし下さるに違いない。イエス様にお話しすれば助けて下さるとイエス様を信じる信仰、イエス様に対する信頼、イエス様なら大丈夫だという、御自分に対する思いをイエス様は彼らの信仰を見て、と言われたのです。

私たちは、それぞれの所から、それぞれの思いを持って、この礼拝に集っております。礼拝する態度、賛美するという行為、メッセージを聞くという態度は同じです。しかし、抱えている問題は違います。その程度も様々でしょう。藁（わら）をもすがる思いが、心の中には渦巻いているのかも知れません。イエス様は、礼拝を守るという行為、祈りを捧げる、賛美する、説教を聞くという行為を見られるというよりも、私たちにどのような問題があれ、困難があれ、絶望があろうとも、こうしてイエス様を礼拝し、賛美する、説教を聞くということを通して、大丈夫の神様、イエス様に対して、必ず私を守り、私を助け、私を導き、私を祝福して下さると信じきる、その心を見ておられるのです。

### 三、あなたの罪は赦されたとの主の宣言を信じる

イエス様が、「**人よ、あなたの罪は赦された**」と言われたので、イエス様に対して、ファリサイ派の人々や律法の教師たちは、「**神を冒瀆するこの男は何者だ。ただ、神のほか、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。**」と心の中で考えたのでした。

23節を皆さんと共に読みましょう。「**あなたの罪は赦された**」と言うのと、「**起きて歩け**」と言うのと、どちらが易（やさ）しいか。」リビングバイブルでは、「どちらがむずかしいか」となっています。「**起きて歩け**」という病気の癒しよりも、「**あなたの罪は赦された**」という罪の赦しの方が重大な事柄だと思えます。しかし、「**あなたの罪は赦された**」と言うのと、「**起きて歩け**」と言うのと」と言うだけならば、「**あなたの罪は赦された**」という罪の赦しの方がやさしいと思われまます。癒されたかどうか、治ったかどうかということは、直ぐに結果が必要です。けれども、罪が赦されたかどうかということは、すぐにはわからないことでもあるからです。言うだけならば、「**あなたの罪は赦された**」と言う方が簡単でしょう。しかし、簡単であるからこそ、無責任に、簡単に、「**あなたの罪は赦された**」と宣言することは、ファリサイ派の人々や律法の教師たちが言うように、神様を冒瀆することになるのです。

イエス様は、無責任に、あるいは、簡単に「**あなたの罪は赦された**」と宣言したのではありません。イエス様には、罪の赦しも、体の癒しも可能なのです。リビングバイブルには、「**わたしは病気を治す力も、罪を赦す権威も持っているのだ。それを証明してみせよう**」と言い、中風の男に、「**さあ、起きなさい。ふとんをたたんで、家に帰りなさい。**」とお命じになりました。」(23-24)とあります。

当時は、病気や悪いことがあるのは、その人に罪があるか、両親に罪があると考えられていました。ですから、イエス様の弟子たちが、生まれつきの盲人を見た時、「**ラビ、この**

人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」(ヨハネ9:2)と問うたのは、そのような考え方が一般的であったからです。

中風である、体が麻痺しているということは、罪があるからだ、罪を犯したからだと言われ、苦しみ生涯を生きてきたのです。

イエス様の所に中風の人を連れて来た人も、中風の人本人も、「**あなたの罪は赦された**」と宣言されてびっくりしたことでしょう。彼らは、罪を赦していただくために来たのではありませんでした。中風の病いを癒していただくために来たのです。ここに、イエス様と私たち人間の違いを見ます。私たち人間の側は、当然、苦しんでいるその源である病気が、病いが癒されることを何よりも第一に願います。けれども、イエス様は、勿論、癒して下さいるのですけれども、その前に大切な事をなされるのです。言うだけなら簡単ですが、簡単ではない、罪の赦しを大切にされるのです。そして、それを優先されるのです。

そして、イエス様こそ罪を赦すことのできるお方なのです。私たちの罪の身代わりに、十字架にかかり、神様の裁きを受け、尊い血を流し、命を与えて下さった。そのことによって、私たちの罪を赦されたのです。そして、死んでよみがえり、私たちの永遠の命を与えて下さったのです。

イエス様は中風の人に言われました。「**起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。**」彼は、イエス様の言われた通りに起き上がり、床を担いだのです。床は、彼の苦しみの象徴でした。絶望の人生そのものでした。しかし、その床を担いだのです。床に寝て、担がれていた者が床を担ぐ者に変えられたのです。私たちも罪の中に落ち込み、絶望の人生を歩んでいた者です、しかし、イエス・キリスト様に出会い、イエス様の十字架と復活、福音を通して、魂が救われ、罪が赦されて、永遠の命をいただく者と変えられたのです。

### Ⅲ 結論部

榎本保郎先生の一日一章で、平行記事であるマタイ9章で次のように語られています。

「**私たちは、誰かを信仰に導こうと考える時、その人に多くの期待を持ちやすい。あの人がもっと熱心に教会へ行ってくれたらとか、もっとまじめに神の言葉を聞いてくれたらと思ひ、またそういうふうになるようにしむけていたりする。しかし、大事なことは、自分が神をしっかりと信じることである。「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。」という言葉がある。私たちの家族に信仰の問題があるとすれば、それは私たち自身に問題があるのである。神には救いについて深いご計画がある。今、家族が救われないのは、あなたの不信仰のゆえだと、せっかちに決めてはいけないと思うが、**私たちが自分自身の問題として考える時、自分がいったいイエスを信じているかどうかを反省することが大事だと思う。だから家族の救いの鍵はあなたにあると、この物語は伝えられていると思う。****」

イエス様は四人の男の信仰を見られたのです。そして、中風の人を罪を赦し、病いをいやされたのです。イエス様は、先に救われている私たちの信仰を見られます。目に見える事柄が、どのようにマイナスであろうが、絶望という壁に囲まれていようとも、イエス様にお任せするなら大丈夫。イエス様は私の愛する人、大切な人を救って下さる。この問題を必ず解決して下さいる。そう信じる私たちの信仰を見て、御業を行って下

さるのです。さあ、私たちは今週、何が起こっても大丈夫。イエス様がいつも共におられ、私たちのイエス様に対する全幅の信頼を、絶対的な信頼を見ておられ、驚くべきみ業、祝福を与えて下さるのです。私たちは、日野原先生や加藤一二三さんのようなインパクトはありませんが、私たちのイエス様に対する信仰を通して、イエス様のみ業をみさせていた  
だこうではありませんか。